

【法学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

特になし。

② シラバス

「8つの資質・能力」がより詳細に明示される、新しい書式に即したシラバスの作成が行われていることを、カリキュラム委員会によるシラバスチェックの際に確認できた。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

特になし。

課題

特になし。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学習成果実感調査において、春学期には法学部導入科目である「プレップセミナー」を中心に、秋学期には主体的な学習ができるようになってきているかを確認するために「講義科目」を中心に、基礎的なデータの収集をして検討した。秋学期は全学的に回答率が低くなる傾向にあるため、調査開始前に繰り返しアナウンスした。「プレップセミナー」や「AL 科目」で学びの意欲、到達目標への達成感を感じる者が多いことは、法学部でおこなってきた Active Learning 重視のカリキュラム改革が目的としてきた、主体的な学習態度の形成が定着しつつあると評価できる。

課題

アセスメントプランの一環としての学習成果実感調査の意義が各教員には浸透していると評価できるものの、回答率はあまり高くない状況にあるので、学生にとっての回答インセンティブが課題である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

学習成果実感調査をみると、授業の到達目標に「達成できた」「おおむね達成できた」割合は、「プレップ

セミナー」では 96%、「法律学入門」では 86%に達し、十分に到達目標を達成できていることが確認できた。また、大学で学ぶ意欲が高まったと「強く思う」そう思う」割合は、「プレップセミナー」では 79%、「法律学入門」では 68%であり、これらの科目を通じて法学部で学ぶ基礎が形成できたと考えられる。

学生の資質・能力に関しては、2025 年度卒業時調査によると、所属学科の専門的知識、論理的思考力、情報収集能力、論理的文章表現力、プレゼンテーション能力、課題発見・解決能力に関して、「身に付いた（かなり身に付いた、身に付いた、少し身に付いた）」との回答は 94%を超えており、多くの学生が修得実感を得られている。

課題

学習成果実感調査について、「プレップセミナー」の回答率は 60.1%と比較的高いものの、法学部生全体の回答率は 23.8%にとどまる。引き続き、回答率の向上に努める。

また、「プレップセミナー」や「法律学入門」といった 1 年次配当科目の履修がその後の GPA 向上にどの程度寄与したかを確認するために、必要なデータを入手し、分析を試みる。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

アセスメント科目について、GPS-Academic、在学生調査、卒業時調査に基づいて授業科目の到達目標の達成状況と学生の資質・能力の修得状況をみたところ、以下のことが確認できた。GPS-Academic の 2025 年度の受検結果によると、法学部生は他学部に比べて「主体性 (DP2)」「創造性 (DP4)」が向上しており、「3 年次演習 B」「4 年次演習 B」をはじめとした AL 科目の成果だと考えられる。

②課題

いずれの調査においても回答率を向上させ、より多くのデータの入手に努める。特に、アセスメント科目の履修の有無と 8 つの資質・能力の修得実感の関係を精査し、今後のカリキュラムの改善に役立てる。

また、的確なアセスメントを実施するため、「4 年次演習 B」の履修率の向上と卒業研究・卒業論文への取り組みの促進を図るため、令和 7 年度からは、「3 年次演習 B」の受講生を「4 年次演習 A」に自動登録した。また、4 年次演習活性化のためのアウトプット支援の対象を 3 年次演習にも拡大することで、「3 年次演習 B」から「4 年次演習 B」へと継続的な学習を促した。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☐ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。

→②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。